



久田栄正氏

憲法学者

【北見】北見出身の憲法学者、故久田栄正氏（一九一五―一九八九年）が自費出版した「戦争と私」を北見市が復刊し、北見市立中央図書館など市内の図書館で貸し出しを始めた。自らの戦争体験をもとに、平和を人権の問題としてとらえ、憲法擁護と反戦を一貫して訴え続けた久田氏。国民投票法の成立で平和憲法の見直しが現実問題になる中、関係者は「北見が生んだ平和論を知ってほしい」と話している。

故久田さん「戦争と私」



北見市が復刊した「戦争と私」と、「北見現代史」で久田氏の項目を執筆した田丸さん

北見発「平和論」知って

石川県生まれの久田氏は、四歳の時に野付牛町相内（現北見市相内）に移り住み、旧制野付牛中（現北見北斗高）を経て京大を卒業。会社員を志していた一九四二年（昭和十七年）、徴兵により入隊、所属部隊の八割が戦死したフィリピン・ルソン島で終戦を迎えた。帰国後、戦争放棄をう

たう憲法草案に感激した久田氏は、五二年から憲法学者として道教大助教、同大教授、札幌学院大教授などを歴任。恵庭事件の法廷では憲法擁護の立場から「平和的生存権」を主張した。

今年二月に刊行された「北見現代史」の編さん作業で、久田氏の資料が少なくことに気付いた担当者から札幌学院大から「戦争と私」を借り、親族の了解を得て百部作製の図書館や市内のすべての小中高校に配布した。復刊に携わり「現代史」で久田氏に関する項目を執筆した市職員の水島朝丸誠さん（五十）は「地元では無名に近い久田氏をしっかりと位置づけたかった」と振り返る。久田氏の札幌学院大時代の同僚で、「戦争と私」の共著もある早稲田大学法学部の水島朝丸誠教授は「憲法九条の重みが久田氏の体験から見えてくる。憲法に関する議論のきっかけにしてほしい」と話している。

改憲問題 現実化する中

市が復刊、学校に配布